



INAX MUSEUMS

INAXライブミュージアム

NEWS LETTER

特集

女性が語る
INAX ライブミュージアム

vol. **09** | 季刊 **2008 秋**





特集

女性が語る INAXライブミュージアム

INAXライブミュージアムの入館者には女性が多い。そのパワーに辻館長はつぶやく。「女性はすごい」。そこで今回は早坂礼子さん、吉川千香子さんとともに、ミュージアムの女性スタッフも登場。お客様に喜んでいただくために、自分たちが誇りを持って働くために、毎日、話し合い、カバーし合い、工夫をこらしてミュージアムの運営に取り組んでいるスタッフの毎日をご紹介します!

[特集] 女性が語る INAXライブミュージアム

02 座談会 「女性が楽しめる」は、「誰でも楽しめる」ことなのです。
早坂 礼子さん・吉川 千香子さん・辻 孝二郎

06 特別レポート
光るどろだんご知多地区大会 & 全国大会

LIVE REPORT

08 開催報告
INAXライブミュージアムの活動が「キッズデザイン賞」を受賞
みんなでどろ遊び どろんこ広場で遊ぼう!

[企画展] モノリス・真下の宇宙
—1cm100年の土のプロフィール

[企画展] やきもの新感覚シリーズ
第72回 畑 絢子展—ツキノハナの陶景
第73回 樋口健彦展—黒い陶
第74回 ガレリアセラミカの7人展—2007年セレクション

LIVE SCHEDULE

09 これからの催し

CONTENTS

INAXライブミュージアム
NEWS
LETTER

vol.09 | 季刊 秋
2008

表紙写真

蝉の鳴き声が小さくなり、芝生の広場に赤とんぼが飛びはじめました。夏休みの終わりを惜しむかのように、親子連れの来館者が多い一日でした。

(2008.8.28)

表紙撮影：加藤弘一

常滑から*

8

昭和の名建築「常滑市立陶芸研究所」



常滑市立陶芸研究所



屋上天窓の屋根

過日、営業マンから「現代日本を代表する建築家、堀口捨己(1895-1984)の設計した建築が常滑にあるそうだけど、案内してもらえませんか?」と依頼されたことがあります。堀口は建築家、そして研究者として活躍し、明治大学理工学部建築学科を創設するなど、教育者としても功績を残した人物として有名です。

辻館長に「常日頃お世話になっている陶芸研究所のことだよ」と教えていただき、早速うかがってみました。昭和30年代、常滑が土管をはじめとする窯業に活気づき、400本以上あった煙突から煙を力強く吐き出していたころ、堀口は天窓からの自然光で常滑の陶芸作品を照らし、煙突から燥煙を避けるための長い軒や汚れにくいモザイクタイルを外壁に使用したそうです。皆様も陶芸研究という目的だけでなく、建築探訪という目で一度、訪れてみてはいかがでしょうか。

後藤 泰男
(ものづくり工房スタッフ)

* INAXが生まれ育った常滑のやきものや土に関わる人、風景、できごとなどを、INAXライブミュージアムのスタッフが伝えます。

「女性が楽しめる」は、「誰でも楽しめる」ことなのです。

早坂 礼子さん × 吉川 千香子さん × 辻 孝二郎
産経新聞編集委員・名古屋特派員 陶芸家 INAXライブミュージアム館長



ピッツェリア「ラ・フォルナーチェ」のテラスで

女性に愛されるミュージアム

辻 僕は、INAXライブミュージアムの主役は女性だと思っているんです。リニューアル前の来館者調査でも、約7割が女性でした。女性はアクティブで、新しいことに対して食欲です。内容についてはもちろん、コストパフォーマンスにもシビアで、そこをクリアしないと満足してもらえない。「女性に愛される施設」という視点でレストランも、今年6月にはミュージアムショップもリニューアルしました。

吉川 今日、ミュージアムショップを見せていただいて、「常滑にこんなお洒落なショップができたの？」という感じてました。

辻 レストランにはよくいらっしゃるのに、初めてでした？(笑)

吉川 ええ(笑)。身近なところに素敵なものがあることを発見しました。

早坂 商品も、ここにしかないというレア感がいいですね。私も美術館に行くと、ミュージアムショップは必ずチェックします。

辻 うちの女性スタッフが中心になってまとめていきました。当ミュージアムでは33名が働いています。うち27名が女性です。こういった施設はお客様

との接点がいちばん大切、つまりお客様と接する人がいちばん大切で、われわれスタッフはそれを支えるためにいると考えています。

そういう意味でも、一度、女性の目線で施設を見直す必要があるのではないかとということで、今日はお二人に、いろいろアドバイスをいただきたいと思っています。

早坂 こちらに来て、女性のみ

なさんが伸び伸びと仕事をしていたら、いい感じだと思えました。日本の企業や社会はまだまだ男社会なので、最前線で女性が活躍する場が少ないですね。ここはソフトのアウトプットが女性なので、当たりが柔らかい。戦略的にも、とてもいいんじゃないでしょうか。それを支える上司の方のご苦労もあると思いますが。



光るだんごを説明する

小さな子どもたちには「お辞儀をするみたいに前に回してね」など、お客様に合わせて説明の仕方も自分で工夫する。



世界のタイル博物館受付

「お客様が『良かったよ!』と言って帰られるときに嬉しいです!」



ミュージアムショップで商品の点検

「お客様に商品を楽しみお選びいただけるよう、並べ方にも気を配ります。」

元気になって日常に還れる空間

辻 吉川さんは外国でもたくさん作品を制作されていますが、「もてなし」という意味で、対応はどうですか？

吉川 私たちは土があれば、どんな環境でも楽しめます。ワークショップでは時々ホームステイしますから、その家の気遣いみたいなものがありますが、環境が変わるとリラックスできません。周りの景色で自分が変わって、つくるものも変わるのがすごく楽しい。

早坂 吉川さんはオープンマインドだから、楽しめるんじゃないですか。

吉川 そうでしょうか。家を離れるからじゃないでしょうか(笑)。

早坂 そういう意味では、非常といいますが、ローテーションワークから離れる場所って大事ですね。女性は子どもの世話や介護など、お家をきちんとやらなくちゃいけないという価値観が残っているし、やらざるを得ない状況がありますから。ここに来たら異空間がある。パワーチャージができて、元気になって日常に還れる。そういう空間であるといいですね。



お客様の作品を梱包する

希望通りの釉薬がかかっているか、数はチェックして、丁寧に梱包。「きっと楽しみに待っていらっしゃいます。」



陶楽工房の受付

「小さな子どもからお年寄りまで年齢に関係なく楽しめるモザイクアートをお勧めすることが多いです。笑顔で帰って行かれると幸せ!」



開館前の朝礼

お客様をお迎えるために、本日の予定、連絡事項など、情報を共有する。



モザイク
アートを
教える

「幅広い年齢の方がいらっしゃるので、ゆくり、はっきり、わかりやすく話すようにしています。」



どろだんごの
種をつくる

「どろだんごづくりでは、お客様の作業の様子やおだんごの良いところを見つけて、お話しするようにしています。」



土・どろんこ館
受付

笑顔での対応を心がけている。予約時間になってもらっちゃらないお客様には電話をして確認。「お気をつけていらしてください。」



ミュージアムショップで

吉川「ほんと、お洒落な感じでびびりしちゃった。素敵な便箋、ペンも可愛い。」
早坂「ちょうどいい旅のお土産になりますね。喜んでいただけそう！」

早坂 女性が楽しめるということ、実は誰でも楽しめることだと思っんです。私は男女

共同企画推進連携会議の企画委員もやっていまして、男女が均等に利益を受け、ともに

より弱い人の目線で考えること

責任を担う社会をつくるにはどうしたらいいかとあれこれやっているのですが、それは女性はまだ日本の社会の中でマインリティだからです。最後に目指すのは、男女の差より個人の差だと思えますが、より弱い人の目線で考えることがすべての成功の基だと思えます。

また、少子高齢化社会になって、日本の平均年齢が高くなっていますね。とくに団塊の世代が今、大量に退職しています。そういう方たちは、学びたいという気持ちがとても強い。地域に住んでいるシニアの方たちの知恵を上手にフィードバックできるといいですね。

弱者の視点でしっかりやっていく。そして、そういう方々にとっても魅力ある施設になることが大事ですね。

吉川 本場にこのコレクションはすごいし、生活に密着しているじゃないですか。新しい便器が置いてあるものづくり工房も面白かった。シンクやキッチンなど、女の人の日常品というか、INAXの専門的な部分の展示がもう少し増えてもいいですね。高級感のある贅沢なもの、夢を馳せられるもの、最先端のものが見られると楽しいと思います。

早坂 中部国際空港にも近いので、日本全国のみなさんにこの良さをお知らせしたいですね。

辻 ありがとうございます！

(8月20日収録)

ミュージアム
ショップ

「館内を見終わっていちばん最後にいらっしゃる方が多いですから、気持ちよく帰っていただけるよう心がけています。」
商品を購入されたお客様から、後でお礼のお手紙をいただくことも。



CS会議
(CS:顧客満足)

ミュージアムの日常的なかで、お客様からいただいた意見や気づいた点などをスタッフがCSカードに書いて提出。会議で検討、改善していく。

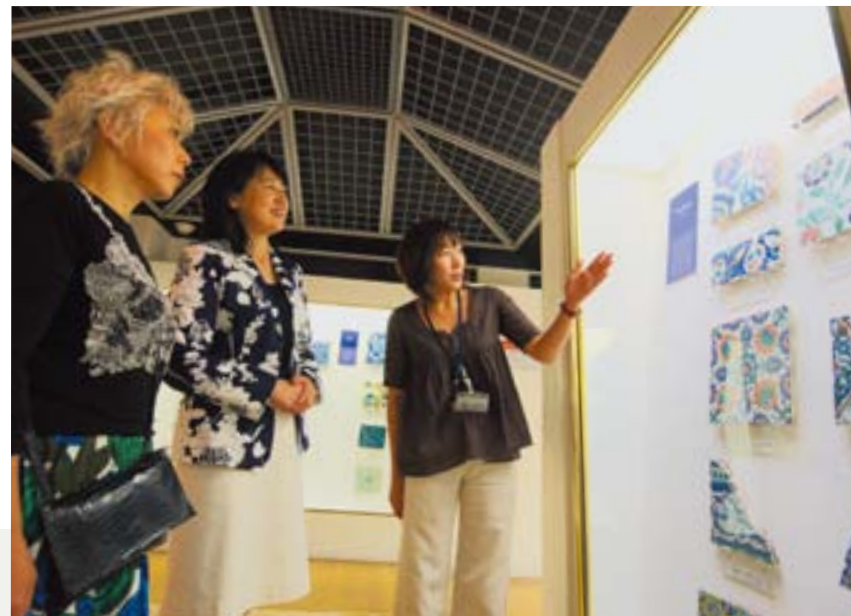
キーワードは「地域との交流」と「リピーター」

吉川 INAXライブミュージアムの展示はけっこう高度ですが、本当に興味のある方が来ますでしょ。しかも常滑はやきものの街ですから、やきもの好きな方が必ず立ち寄るところです。空間構成がとってもいいですね。土・どろんこ館は豊かな感じ。ゆるやかで、それでいて凛としている。そして横には常滑ならではの、中に窯のある黒い板壁の建物があって、キュッと締まる。素敵ですよ。リニューアルでミュージアム全体が開けた感じになって、みなさん入りやすくなったんじゃないですか？

早坂 圧迫感がないですね。高い塀もないし、今日は休館日ですが、いろいろな方が出入りしている(笑)。

辻 土・どろんこ館をつくる前に、地元の人たちと何回かディスカッションしました。それでずいぶん変えたところもあります。たとえば月曜日休館はやめてほしいと。他が全部休みで、常滑に来て行くところがないから。また常滑の店の多くは午後4時半になると終わっちゃうというので、レストランは夜10時まで営業しています。

早坂 成功しているテーマパークのキーワードは「地域との交流」らしいです。もう一つは「リ



世界のタイル博物館でスタッフの説明を受ける。

吉川「このコレクションは本場によって、気持ちが豊かになる。何でそう感じるのかしらね。」
早坂「本物だからじゃないですか。タイル一つ見ても、タイムスリップして、つくった人たちの息吹を感じることができます。」

ピーター」。日本で一番リピーターが多いのは東京デイズニールで、95%だそうです。内容を少しずつ変えて、リピーターでも楽しめるようにしてある。追体験と新しい体験が相乗効果をあげているようです。

辻 こういう施設はそうやって少しずつ変えながら、来館者を増やしていくことが大切ですね。

早坂 企画についても、女性スタッフの力を活かしていきたいですね。複眼的に物事を見る訓練は、女性の方ができています。だって毎日、仕事や家のことを並行してやっているんですから。柔軟な発想も男性より幅があるのではと思うんですよ。



辻 孝二郎
TSUJI Kojiro



早坂 礼子さん
HAYASAKA Reiko

1980年産経新聞社入社、86年編集局経済部配属。記者として経済官庁や主要業界を担当。99年4月米スタンフォード大アジア太平洋研究所客員研究員、2000年9月USATODAY紙国際部デスク。2001年3月に帰国し、東京本社経済部次長、営業局企画部長を経て現職。産経新聞本紙の「言わせてもらえば」のほか、産経新聞グループの媒体で経済コラムを連載中。ほかに韓国の文化芸能の紹介にも力を注ぐ。夫と社会人3年目の息子が1人いる。現在、名古屋市に単身赴任中。



吉川 千香子さん
YOSHIKAWA Chikako

武蔵野美術大学彫刻科卒業後、1974年愛知県常滑市に移る。78年初個展。生まれたばかりの子どものつくったやきものオモチャが、初個展のきっかけに。自由奔放な作品は「元気になる」と、根強いファンが多い。国内外で展覧会を多数開催。INAXライブミュージアムでは2000年にやきもの新感覚シリーズ第11回吉川千香子展を開催した。パブリックコレクションに不思議の森(名古屋市東山植物園)、常滑市民文化会館。陶芸家の夫と、独立した3男1女がいる。